

第 32 期第 2 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和 7 年 5 月 27 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分
仙台市泉図書館 大研修室
- ◎ 出席委員の氏名 神谷祥夫委員、木村ひろみ委員、児玉忠委員、
小林直之委員、齋藤千里委員、佐々木祐二委員、
佐藤孝子委員、佐藤幸雄委員、中川美佳委員、
渡邊勝宏委員、渡邊千恵子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 湯村倫子、市民図書館副館長 伊勢貴
広瀬図書館長 佐藤雅智、宮城野図書館長 岩淵明広
榴岡図書館長 柴田雅子、若林図書館長 村上佳子
太白図書館長 横山弘達、泉図書館長 那須野昌之
市民図書館企画運営係長 菊池敦
市民図書館奉仕整理係長 吾妻由美
市民図書館奉仕整理係主査 浅野佑一

◎ 会議の概要

1 開 会

2 挨拶

館長挨拶・事務局紹介
会長挨拶

3 会議録署名委員指名

会長より児玉忠委員を指名。

4 報告事項

（1）令和 7 年度仙台市図書館運営方針・事業計画について

（市民図書館副館長 報告）

資料 1 に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

- 議 長 方向性 2 の施策項目 3 について、今年度も実行委員会形式で実施するということが、
昨年度のような講演会というスタイルになるか。
- 事 務 局 昨年度は児童文学者講演会の企画運営を担う中高生の実行委員を公募したが、今年度
は講演会という縛りを設けず、中高生自身が自分たちの世代の読書活動を推進していく
企画をゼロベースで図書館と一緒に考えていく形式の事業を計画している。
- 議 長 より難しくなったと思うが、若い世代の方たちの可能性を引き出してほしい。先ほど、
泉図書館の館内を見学したが、YA 世代の方たちが作ったブックリストや他の図書館で作

成された広報紙なども展示してあって、とてもよいと思った。

(2) 令和7年度仙台市図書館予算概要について

(市民図書館副館長 報告)

資料2に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

なし

(3) 令和6年度蔵書点検結果について

(市民図書館副館長 報告)

資料3に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

なし

5 協議事項

(1) 「仙台市図書館振興計画2022」(見直し版)の策定について

(2) 「仙台市図書館振興計画2022」(第三次)に基づく取組み状況と自己評価について

(市民図書館副館長 説明)

資料に基づき説明

[委員からの質問・意見等]

- 議 長 事務局からの説明では、現行計画の見直しの方向性について、皆さんのご意見を伺いたいということである。資料4-1の「3. 現行計画の見直しの方向性」に記載のとおり、全体の骨子はそのままとし、これまでの3年で十分に実施できていなかったところを残りの3年で進めていくという提案だと思う。ご意見あるか。
- 副 会 長 資料の4-2について、方向性ごとに自己評価がされていて、「○」は計画どおり進んでいる、「△」は更なる取組みが必要であるとして今後課題を残したところだと思うが、「△」が4点ほどあり、令和7年度運営方針・事業計画との関係で気になる点があった。「△」になっている4点のうち3点については、令和7年度の事業計画で【重点】とする取組みがあるのに対して、方向性4(1)の「市民の財産としての資料を計画的に収集・保存し、活用します」については、【重点】としての取組みがない。これは何か事情があつてのことか。
- 館 長 図書館振興計画の方向性4(1)の施策①に「視聴覚資料のあり方の検討、見直し」がある。これはまさに課題を残している部分であり、今後のあり方を検討しなければならない。今後ご議論いただいてからと考えており、今年度の【重点】とはしていなかった。
- 副 会 長 今後、重点化される可能性もあるということで了解した。
- 議 長 今後取り組むべき施策が4点あげられているが、他に何か意見はあるか。
- 佐藤孝子委員 資料4-1の「2. 「仙台市図書館振興計画2022」(令和4～6年度)の取組み状況と自己評価」の方向性4について、「図書館職員に求められる資質と専門性の向上に努める」

とある。その下に「指定管理制度の活用と直営館の機能強化の方針を決定」と記載されているが、具体的には研修を行うことなどになるのか。

館長 方向性4で何に取り組んでいくかということだが、職員の資質向上はこれまでも抱えている課題である。来年度、宮城野図書館に指定管理制度が導入されることに併せて、直営館の機能を強化していくために体制そのものを変えていくことに力を入れていきたいと考えている。

佐藤孝子委員 このような研修をして強化しますという、機能強化のための具体的な取組みが決まっているのかと思いましたが、承知した。

齋藤千里委員 資料1の方向性2の取組みで、「絵本を通じた乳幼児と保護者のふれあいの機会づくりの推進」【重点】とあり、ブックスタートと関連があるのかと思った。市長が話をされている記事を新聞で拝見したことがあるし、これまでも協議会で議論されている話なので、具体的に何か進んでいるのであれば伺いたい。

館長 お見込みのとおり、いわゆるブックスタートのことであるが、「ブックスタート」の名称は商標登録されており、NPOブックスタートが規定している条件に合わないと思うことができない。ブックスタートを意識しつつ、近いものがないかと考えている。

議長 「ブックスタート」という言葉は使えないにしても、仙台市で誕生したお子さん方に絵本をプレゼントする事業のことかと思う。仙台市くらいの規模になると、経費が非常にかかると思うが、予算的な問題はどうか。

館長 できれば来年度予算の要求ができればと思っているが、全くそこまでいっていない。これからの作業となる。

議長 どのように絵本を渡して、それが効果的に活用されるのかということも考えてからでないと、「いいことだからやりましょう」というだけではないと思う。

佐藤幸雄委員 ブックスタートについては、議会で市長の前向きな御答弁をいただいた。お話のとおり、NPOブックスタートの「ブックスタート」は仙台市が進めようとしているものとは少し違うが、仙台市以外の自治体では、実際に始めているところが多い現状があるので、これは自治体間の格差になる。それはやはりよくないことだし、市長も「子育てが楽しいまち・仙台」と言っているので、子育てする方が仙台から逃げていくことがないようにしないといけない。そのためには予算の問題になるが、仙台市はふるさと納税が年々増加している。他都市でも行われていることだが、ふるさと納税でブックスタート事業を名目すると寄付金がさらに伸びる。お子さんのためにお金を使ってほしいと思う方々が潜在的に全国にはたくさんおられるので、予算はそれも踏まえて検討しているということかと思う。これまでの協議会でも、お子さんが小さいうちに本に触れることで、大人になっても本の大切さがわかる人になるという話がされてきた。その子が親になったとき、こどもにそれをしっかりと継承していくような、そういう流れをつくるためには、小さな頃から絵本に触れるということが一番だろう。

小林直之委員 私はいわゆるブックスタート事業については、十分に時間をかけて慎重な議論が必要であると思う。そもそもの話として、公共図書館がやることかということも十分に考えるべきだ。他の部署においても検討する課題ではないかと思う。

図書館は、様々な本を利用者に提供することが一つの役割であり、図書館に予算があったとしても絵本を購入して、その1冊、2冊を届けることが、果たして公共図書館の形としてあるべき姿なのかというところから私は検討すべきと思っている。図書館に来ていただいて、たくさんある本の中から自由に本を選んでいただくというのが、図書館の形だと思うので、いわゆるブックスタート事業が公共図書館の事業になじむのかを十分議論したい。また、予算面でもこのような事業は一度始めるとやめられなくなる。やめれば、削減するのかとマイナスの方向に受け取られる。図書館がやるべきことは他にもたくさんあるのに、この事業のための予算確保をずっと続けていけるのか。この事業をやるための図書館なのかというと、私は違うという考えを持っている。長く持続できるのか、維持できるのかということも十分に考えてから議論することが必要だ。

佐藤孝子委員 5月24日にみやぎ親子読書をすすめる会で、ブックスタートに長く関わっていて、NPOブックスタート理事の代田知子氏をお招きして講演会が開催された。NPOブックスタート主催のオンライン研修会はこれまでも受けてきたが、今回の講演会で実際にブックスタートを行っている様子を初めて映像で見た。仙台市で長く行われてきた、赤ちゃんに対しての読み聞かせとか、本の紹介という形とは全く違うもので、一人一人の赤ちゃんに対し、どのように進めていくのか知ることができた貴重な機会であった。今秋、宮城県でNPOブックスタート主催の全国研修会がある。ブックスタートは、図書館だけではなく保健所の方など、いろいろな方々に関わらないとできない事業なので、皆さんにも見ていただきたい。確かに議論は続けなければならないとは思いますが、これまでも協議会でブックスタート事業については議論されており、市長も前向きな関心を寄せている。勉強のため、どういう事業なのか実態を見ていただくといいと思う。

議長 ブックスタート事業とは何かをきちんと知ることは大事だ。私もそれほど詳しくないが、印象としては本をこどもたちに届けた、そのあとどうするかという方が大事だと思う。そこは考えていかななくてはいけないと思うが、ブックスタート事業を実施するかどうかは、この図書館協議会の議題になり得るか。

館長 次回、素案に盛り込まれると思うが、今の段階でもお話をいただけるほうが私どもも参考になる。

議長 恐らく事務局から資料が出てくると思うが、分からないままでは議論できないので、皆さんそれぞれで調べて考えてきてほしい。

副会長 こちらに諮問が来るわけではないのか。

館長 ブックスタート事業単独ではなく、この振興計画の中のメニューの一つとして、上げるか上げないかといったことも含めて、ご議論いただきたい。

議長 一度、検討が必要か。

副会長 こういう条件で検討してくださいという諮問があったほうがやりやすい。

議長 この協議会でも何度も意見は出ているが、また違うお考えの方もおられるし、一度考えてみる必要があるのかもしれない。では、他の視点で何かあるか。

副会長 私は教員養成に関わっているので、大変気になっていることがある。平成29年告示で学習指導要領が改定され、高等学校の「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時

間」に名称が変わった。昨年度が年次進行で3年目、完成年度となった。全学年で「総合的な探究の時間」を行っているが、各高校の先生方は大変ご苦労されている。そこに図書館が関われないかと思っている。

資料4-2の自己評価にある中高生が実行委員になって講演会を企画運営したとか、電子図書館利用のための特別利用IDを与えたとか、そういうことはこれまで進めてきたが、学校は教科書がなく正解がない探究的な学びに取り組みなければならない状況になっている。先生方も忙しい中で、いろいろなテーマに付き合うが、玉石混交の成果しかあがっていない。その一方で、大学入試が改革されていき、どのようなことに取り組んだのかを問われるようになり、推薦入試でもそういった問いが多くなった。ここに図書館が関わらない手はないだろうと思っている。いきなり何か手伝うのは難しいと思うが、高校は今、手助けを非常に求めている。例えば、宮城教育大学は仙台青陵中等教育学校と連携していて、学校に大学教員を派遣している。つまり先生が足りないから専門性が欲しいということだ。

また、それとは別の形で、図書館に自分で調べに行くようなチャンネルと事例をつくりたい。図書館を活用してこのような成果が上がったという事例を全高校に知らせたい。現実を見てみると生徒のレポートの中身は玉石混交で、インターネットで調べたことをコピーして貼り付け、レポートの形に仕上げているものが山のように出てくる。そうではなく、もう一段階クオリティを高めてほしい。図書館を知ってもらえるチャンスにもなるので、ぜひ検討を始めていただけたらありがたい。

議 長 私も高校で探究学習の方法について授業をすることがあるが、その際は、情報収集の一つとして、図書館で司書に相談することを提案している。おそらく行っていないと思うが、窓口があるというだけでも違うのではないか。

副 会 長 パンフレットのようなものからでもいいと思う。
議 長 私も同じ意見だ。今は紙ではなく、データをタブレットに入れるとみんな見ることができるので、担任の先生から紹介できる。どういった探究学習のサポートの形があるかを考えていただければと思う。

副 会 長 間違いなく高校に種はあるので、そこに図書館はコミットできるだろうと思う。
議 長 仙台高校は探究学習を熱心にやっている。以前、ヒアリングしたことがあると思うが、図書館をうまく使って探究をやっていきたいという考えは高校側から示されたか。

事 務 局 昨年度、仙台高校と情報交換をした。実際に、SDGsやキャリア教育の部分など、様々な柱がある中で、生徒が3、4人だったと記憶しているが来館し、図書館職員がどういう仕事をしているか、情報の仕入れ方などを学び、レポート発表資料という形でまとめた。今年度も仙台高校から依頼があったので受入れ可能だと回答している。

また、昨年度は県立高等学校の「総合的な探究の時間」での訪問を受入れた。この時は30～40名単位であったが、各自が研究しているそれぞれのテーマに合った資料を図書館で探すというものだった。図書館職員が近くにおいて、レファレンスを行いながら個人で必要な資料を見つけていくサポートを行った。

議 長 図書館でそのようなことができるということがもっと広がるといい。先生方は知らな

いのだろうと思う。

渡邊勝宏委員 「総合的な探究」と高校だけ名称が違う点に関し、教科の部分の探究要素と、総合的にという要素があるが、教科の部分の探究については、例えば「古典探究」のようにすでに教科の中に落とし込まれている。探究する行為自体を、必須の資質能力として育成していくべきものという考え方に切り換えていこうということだと思う。以前、私が定時制高校に勤務していたときに、生徒たちは学校を卒業したらまさに自分の人生の調べ学習をしていかなければならないという発想から先生方と探究の時間をつくった。例えば、生命保険に入るのか入らないのか。それは人それぞれで違うので、調べるということを体験させることが、卒業時点で身につけさせる資質能力だと思った。ただ、何を調べたらよいか分からない生徒が多いので、まさしく児玉委員がおっしゃる「種」が重要で、調べる種はたくさんあることを見せることが大切だと思う。

この春、宮城県図書館勤務になり、図書館は郷土資料が大事だと思った。調べ学習をするときに食品や科学については、ニーズに応えられないことも多いが、郷土の調べものはやはり図書館に行ったほうがいい。八幡町や長町など町単位の地域に関する資料も所蔵しているのが素敵だと思うし、図書館からもそのことを発信してほしいと思う。

また、小学校の国語の教科書では、公共図書館を利用しようという単元があり、学習課題は、どんなサービスがあるかを調べて教えてもらいましょうという内容である。こどもたちは、図書館は本を貸してくれるところというイメージを持ちやすいが、多様なサービスがあることを小学生のうちから教えていき、体験してもらうことが、調べる種を花咲かせることにつながっていくと思う。

副 会 長 学びの種がいっぱいあるが、それをこどもたちは知らない。今は自分で問いを立てることが求められているが、このような問いを立てると図書館でこんなふうに調べることができるといった、バリエーションが幾つかあるとイメージしやすい。例えば、地域の問題を調べるのは地域の図書館が得意で、インターネットではなかなか答えが見つからない。そういう得意不得意なども精査しながら、幾つか学校に向けてチラシやパンフレットなどでもいいので配ってみる。面白そう、やりたいと思う子がいるかもしれない。個別最適な学びが求められているので、一人一人違う。そこに学校は対応し切れなくなって、様々な不具合を起こしているので、図書館がそこをサポートできる余地はあると思う。

議 長 高校生は「こういうことができますよ」、「じゃあ行ってみようかな」とはならない。自分の困りごとに対して、助けになると思うようなアプローチでないと行ってみようと思わない。図書館側からすると、そんなことまでするのかと思うかもしれないが、高校生が利用したくなるような切り口を考えてみたらいいと思う。

副 会 長 結果を出すのは大変なので、少しずつ検討いただけたらありがたい。

議 長 図書館はもともと中・高校生はたくさん出入りしているところなので、ポスターでも目につくかもしれないし、あるいは図書館で見つけた資料で調べてこんな研究できましたというロールモデルがあるといい。

副 会 長 これは学校図書館がうまく機能していない現状との関わりでもある。図書館に行っ

みたもののインターネットのほうが楽で簡単だと思われぬように、例えば学校図書館にポスターを貼って、そこから子どもたちを公共図書館へ導いていくような仕掛けがあってもいい。

木村ひろみ委員 学校図書館については、実は少し気になることがある。子どもたちが、読みたい本がないと言っている。楽しくするためには何があるといいのかなと思う。

副 会 長 構造的な問題だと思う。

木村ひろみ委員 図書先生が工夫して図書室を可愛らしく飾ってくれたりしている。実際行ってみると遊んでいたりするので、本を読む時間はあるのかな、大切な時間なのと思う。

議 長 学校図書館では、生徒が選書できると気持ちが変わってくるかもしれない。小学校では児童が本を選ぶことはあるか。

佐々木祐二委員 基本的には担当の先生や、仙台市は学校図書事務員が配置されているので、その方々が選書する。昨年度から学校図書館部会に携わっていることもあり、本校では公共図書館に出入りしている信頼できる業者に来ていただき、子どもたちが選書している。基本的に先生方が読ませたい本と子どもたちが読みたい本のあいだには、ものすごくギャップがあるので、予算の半分以上は子どもたちが読みたい本を購入している。昨年度の取組みとしては、この方針にも関連しているが、子どもに選書させて、保護者や地域の読み聞かせのボランティア団体などに声をかけて投票してもらい、学校、保護者、地域のみんなで選んだ本 100～200 冊を購入した。本校はおそらく仙台市内で一番児童が本を読んでいる学校なのだが、何か工夫しないと変わらないというのはこちらの方針にもつながると思う。

議 長 仙台市内の小学校で同じような取組みはされているのか。

佐々木祐二委員 同じような取組みをしているわけではないので、学校図書館部会で広げたいと思っている。

中川美佳委員 本校でも昨年度、保護者や地域にも声をかけて選書会を行った。きっかけは、中学校の図書室によくあることだが、本校の図書室もきちんと整備されていて、塵一つなく落ち着いた清潔な場所になっている。あるとき生徒に「図書室に行ってる？」と聞いてみると「あまり行ってない」ということだったので、みんなで図書室に行って改善策を考えてみようとして図書室に連れて行ったところ、すごい数の改善案が出た。昨年1年間でそれを実現させた結果、1日の平均の利用者数が5倍、10倍と増えた。改善案の一つに置いてある本がつまらないので、自分たちで選んでみたいというのがあり、今までもリクエストはしていたと思うが、実際見計らいがたくさんあるところで選ぶことはやっていなかったの、昨年は選書をやってみた。また、エアコンがなかったので、早めに設置してもらえるように働きかけ、エアコンがつくまでの間は、校長室を臨時図書室として開放した。校長室で大勢の生徒が本を読んだりしている中で、子ども同士のコミュニティができ、本を読みながら話し合う楽しさが分かってきたところで、図書室に戻した。他にも、図書室の中に座って読むところがほしい、もっと明るい感じにしたい、BGMが流れていたらいい、テレビ画面があつてスライドで何か映っていたらいい、本の置き場はこうだといい、人形を置きたいなど意見がたくさん出て、徐々に整えていった。私

は中学校の学校図書館部会事務局も務めているので、今年为学校図書館部会(5月8日)では本校が取り組んだ改造大作戦についての紹介をした。また、選書会をやっていない中学校も多いので、実際に書店に来ていただいて学校図書館部会の教員に選書会体験をしてもらった。

子どもたちには、自分たちの力で学校は変えられるということを伝えており、図書室を変えるところから、これを足掛かりに学校を楽しい場所にしていこうと話している。先ほど佐々木委員が、仙台市で一番本を読んでいる学校だと話されていた。その点、本校は貸出冊数としては多くなく、教育指導課のヒアリングでは冊数が足りないと言われるが、数字だけにこだわることに問題を感じている。あれだけ大勢の生徒が図書館に来て本を手にする時間を過ごしている。生徒たちの忙しい日程の、読む時間の確保の問題もあるし、冊数だけでは測れない本との関わりが深まっている部分についての評価をしていただける場所がない。読書推進という意味では、たくさん本を読む子を育てたいというよりは、大人になったときに本と豊かに関われる人間を育てたい。今は、その種まきをしているつもりだ。

先ほど高校の「総合的な探究」の話があったが、中学校の教科指導の支援にもぜひ図書館に関わってもらいたい。しかし、資料4-2では、例えば方向性2(3)「ヤングアダルト世代の読書活動、学習活動を支援します」の自己評価が○になっている。今回の現行計画の見直しの方向性のところの上がってくるものではないと思ったので発言しなかったが、学習活動としてどのような支援をしてくださっていたのかについては、実は疑問に思った。

高校の「総合的な探究」などにつながるような学習活動の支援にはなっているかもしれないが、例えば義務教育の現場で教科の学習支援になっているかということと中学校ではあまりうまく活用できていないと思う。課題として現場の声を聞いていただくような機会があれば、どういう形での学習支援があるかということも吸い上げられると思う。

また、高校生、大学生に図書館に足を運んでもらうという話があったが、例えば、本校は山の上であり、図書館にはバスや車がないと行けない。そういう環境にいる子どもたちに何ができるかと考えると、図書館から本を直接借りることよりも、本の情報をいただくことや人的支援が非常に重要だ。例えば、本を使った調べ学習の事例の情報や、図書館職員の話聞く機会があってもいい。あわせて、電子図書館は学校でも、もっと便利に使えるようになればと思う。自分で公共図書館に足を運べない子どもたちに、公共図書館ができることまた、学校図書館としては何ができるか、この2本の柱で、今、学校の図書館改革を考えているところだ。

議 長 選書に関しては、非常に良い取組みだ。それぞれのお立場で広げていただければと思う。中川委員もいろいろとお考えがあるようなので、現実化していけるように応援したい。

齋藤千里委員 私が関わっている学校内にある土曜開放図書室「よつば文庫」は、学校図書館の本と一緒に借りることができる。また、子どもが関わりを持てるように、子どもたちに呼びかけて6月に選書会をしている。学校が選ぶよりも子どもたちが読みたい本、身近な本

を選ぶことができる場となっている。

先ほどの探究の話から思ったことだが、私はブックトークの活動をしているが、実は郷土資料を使ったブックトークもある。ブックトークでも図書館にこういうものがあるよと活用の事例などを子どもたちに紹介していけると、自分の知りたいことが調べられる資料が図書館にあるという気づきになると思う。

議 長 それぞれのところで、子どもたちが生涯にわたり本と関わっていくことについて真摯に取り組んでいるのがよくわかった。

佐藤孝子委員 調べ学習や探究についてもそうだが、中学校や高校では、とても内容の濃い公共図書館と学校図書館の利用ができることがわかった。小学校では、先ほど佐々木委員のお話のとおり、仙台市は学校図書事務員2名が配置されているが、その方々の研修会は学校ごとに実施されており、内容もばらばらだ。子どもたちの一番大事な小学校時代に、身近にいる学校図書事務員が専門性を持っているととてもよいと思う。

以前、富谷市の夏休みの調べ学習コンクールの見学に伺ったことがある。富谷市は小学校の図書室にも司書資格がある方や相談員が配置されていて、子どもたちにつきっきりで教えたり、一緒に調べたりしていた。もともと公共図書館にいた方が学校図書館に配置されていて、とても質が高いと感じた。富谷市と仙台市とは状況が違うとは思いますが、仙台市でも学校図書事務員の活用や研修をしっかりとやっていただいで、子どもたちに読書を勧めるということは難しいのだろうか。

佐々木祐二委員 学校図書事務員が配置されて20年ぐらいにはなると思うが、多いのは、元々その学校の保護者だった方が、学校で他の業務、例えばさわやか相談員などを兼務しながら働いている。確かに研修は学校ごとにばらばらで、新任で1回研修し、それ以外は希望制の研修が年に1~2回ある。1日4時間の勤務の中で、一生懸命にやっていただいているが、公共図書館の司書のような専門性は持っていないので、レファレンスは難しいと思う。学校も研修や待遇の要望はしている。2人配置されているが、1日2人勤務するわけではなく、2人の方のどちらか1名が1週間のうちに1日4時間入るため、3日勤務の方と2日勤務の方になるが、それでは生活できないのでなかなか難しい問題である。

佐藤孝子委員 見直しがないまま今まで来ているというのは、とてももったいないことだ。もちろん公共図書館の方々が学校にいろいろと本を持ってきてくださったり、サポートして下さったりすることで授業が成り立っていることも分かっているが、学校図書事務員についても今後見直しがされればよいと思う。

議 長 現状、いろいろな課題が山積みであり、これもその一つであると思う。今回の現行計画の見直しの方向性について、ご意見がいろいろ出たが、今後取り組むべき施策の追記のところで、今出たものを追記するというわけではなく、いろいろなものを追記していく。それから全体的な文言の見直しをしていく方向で、今回の現行計画の見直しを進めていきたいと思うが、よろしいか。

副 会 長 出なかった論点もあったと思うので、窓口をつくっていただければと思う。

議 長 こういう視点も必要だったなということがあれば、事務局に早めに送ってほしい。

れを基に素案をつくっていくことになる。

それでは、この方向性を大体お認めいただいたということで、よろしいか。

各 委 員 異議なし。

6 その他

参考資料の説明

次回協議会の案内

7 閉 会